



# 市史通信

## 第19号

仙台市博物館  
市史編さん室



3代歌川国貞筆「伽羅仙代萩」(仙台市博物館所蔵)  
我が子を犠牲にしてまで幼君を守った乳母・政岡(中央)は4代藩主伊達綱村の生母・三沢初子がモデルともいわれている



大正時代の政岡豆総本家  
(『仙台アルバム』仙台市歴史民俗資料館所蔵)

sendai 今昔

## 仙台みやげものがたり

今から約300年前、『奥の細道』の旅の途中で仙台を訪れた松尾芭蕉は、仙台北城下の画工加右衛門から餞別として糰もち※1袋とわらじ2足を贈られています。糰は、当時仙台の名産として知られた産物ですので、おみやげの意味もあったのでしょう。この糰は、伊達政宗が河内道明寺糰の技術を導入して仙台北城下で作させたのが始まりといい、上等なものは幕府へも献上されました。

江戸時代に仙台を訪れた旅人たちが残した紀行文には、ほかにもいくつかの仙台のみやげ物が出てきます。たとえば、天明8年(1788)の『東遊雑記』は木萩を軸とした筆、「浮ばり」というキセルなどに施された細工物(彫金の一種か)を仙台の名産として挙げています。文政12年(1829)の「仙台領高名競」は、名前が日本中に知られているものとして「宮城野萩軸」と「糰」、袴地の「仙台ひら」などを挙げています。

こうしたみやげ物は、時代につれて変わっていきます。昭和12年(1937)の『河北年鑑』には仙台の名産品として、水産物関係では鯛味噌・牡蠣・笹蒲鉾、手工業品では埋木細工・仙台平・八橋織、そして菓子として九重・塩釜・政岡豆など6つの商品名が挙げられています。このうち政岡豆は、煎った大豆に砂糖をまぶしたもので、今は味わうことはできませんが、明治時代後期から昭和30年代までは仙台を代表するみやげ物の一つだったようです。

政岡というのは、伊達騒動を題材にした有名な歌舞伎『伽羅仙代萩』の主要人物です。芝居が大衆の娯楽であった時代、架空ではあれ、仙台に関わる人名としては抜群の知名度を持っていたので、それにあやかって商品名がつけられたのでしょう。

現在、駅などの売店やデパ地下には、みやげ物や地元の物産が、選ぶのに一苦労するほど並んでいます。さまざまな菓子類や定番となった笹蒲鉾、そして牛タン。仙台のみやげ物として牛タンがこれだけ多くの人に知られるようになることを20~30年前にどれだけの人が予測したでしょうか？以前はお盆前後のごく限られた時期に家庭で作って食べるものだったずんだ餅までもが、包装や冷蔵技術の進歩によって今や、みやげ物となったことも、仙台人としては大きな驚きでした。

栄枯盛衰は世の常。かつての糰や政岡豆などは姿を消しましたが、新興勢力の牛タンやずんだ餅がこのまま仙台のみやげ物として不動の位置を保つのか、あるいはまた別の新顔が登場してくるのか、興味津々です。



ずんだ餅 ゆでた枝豆をすりつぶして甘味付けした餡をかけた餅

※ 飯を干したもので、水に浸してすぐに食べられ、携帯食・非常食として重宝された。



美味し国  
伊達な旅  
仙台宮城

大型観光キャンペーン

「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」  
平成20年10月1日~12月31日

URL <http://www.sendaimiyagidc.jp>

# Survey MIYAGINO 宮城野

今のシーズン、東北楽天ゴールデンイーグルスを応援する歓声と花火の音が賑やかに響きわたっているクリネックススタジアム宮城周辺ですが、かつて、この榴ヶ岡の東から木ノ下、陸奥国分寺を含む一帯は、「宮城野原」と呼ばれた原野でした。そんな宮城野の歴史をSurvey(測量する・概観する・見渡す)してみましょう。



クリネックススタジアム宮城(株式会社楽天野球団提供)

2008

平成20年



大正5年に行われたアート・スミスによる公開飛行(個人蔵)



## 2 宮城野原を飛んだ飛行機

明治時代から第二次世界大戦終了時までの宮城野原は、その広い野原が軍隊の練兵場でした。陸軍の演習はもちろん、小学校の連合運動会や飛行場としても使われていました。

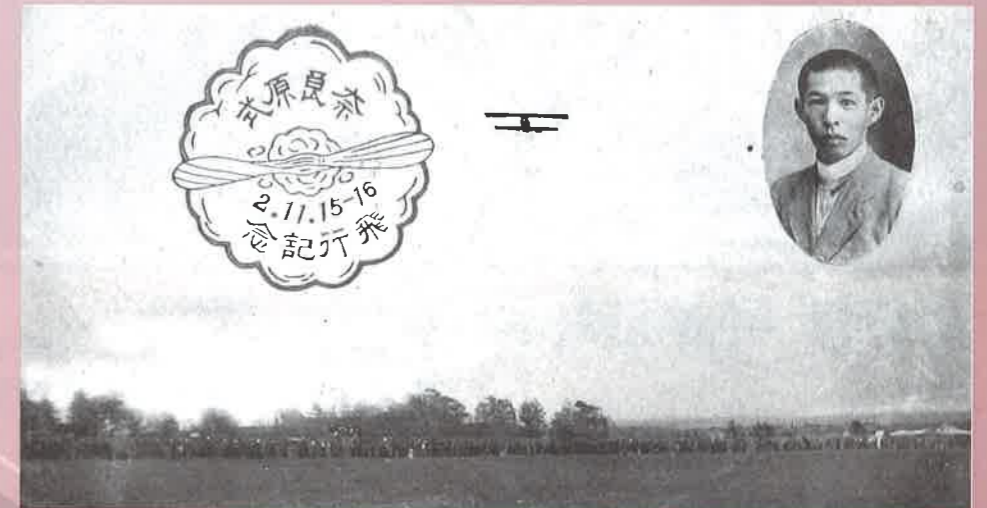
大正2年(1913)、白石栄之助操縦の奈良原式鳳号(複葉プロペラ機)が宮城野原の空を飛びました。これが仙台で初めて飛んだ飛行機です。大正5年には、アメリカ人のアート・スミスが公開飛行を催しました。また、大正11年5月には根白石出身の高橋今朝吉が、青葉神社の例大祭に合わせて訪問飛行を行っています。当時の『河北新報』記事によると、同乗した市会議員菊田定郷が「空は実に壮快である」と語っています。

1950

昭和25年

1913

大正2年



大正2年に行われた奈良原式鳳号の飛行(個人蔵)

## 1 ポールパークの第一歩

昭和25年(1950)5月3日、宮城野原の県営宮城球場ではランド開きが行われました。県知事による国民体育大会誘致宣言、仙台市女子高校連合合唱団による『宮城県体育の歌』の合唱などの祝典行事が行われました。引き続き仙台一高対東北高校の記念試合があり、スタンドには両校応援団の人文字が浮かび、球場は大歓声に包まれました。

二日後の毎日・南海・大映によるプロ野球公式戦には、夜明け前から観客が並び、押すな押すな超満員。翌年にはジョー・ディマジオを擁する全米選抜チームと巨人の試合がここで行われ、人々は野球の醍醐味を満喫しました。

こうして、かつての練兵場は大きな変貌をとげ、現在では西半分が宮城野原公園総合運動場に、東半分がJR貨物宮城野駅になっています。



昭和25年に完成した県営宮城球場(風の時編集部所蔵)

江戸時代

平安時代

## 4 それこそそれよ 宮城野の原

平安時代の末、松島寺の覺弘上人に仕えた少年・宮千代は、歌の修行のため一人で京へ上る途中、月明かりに輝く宮城野原にさしかかりました。そこで「月は露 つゆは草葉に宿かりて」と詠みますが、どうしても下の句が続かない。そのまま亡くなった宮千代は、亡霊となって夜な夜な現れ「月は露…」と口ずさむようになります。それを哀れんだ見仏上人が「それこそそれよ 宮城野の原」と下の句を手向けてやったところ、亡霊はようやく未練が晴れ、現れなくなりました。

現在の地名の由来ともなった伝説の宮千代の墓は、宮千代一丁目の公園内にあり、毎年のお盆には、地域の方々によって大切に供養されています。

## 3 宮城野萩

江戸時代の宮城野は、城下の東に広がる原野で、仙台藩主専用の狩猟場でした。秋の頃には、古歌に詠われた萩が赤白紫に咲き乱れ、鈴虫の音色が楽しめました。花の季節が終わると、萩の枝は、仙台名産に数えられた五色筆の軸に用いられもしました。宮城野萩のほか、実方中将墓付近の片葉の薄、名取川の蓼など、歌枕に知られた材料が筆軸となり、風雅な土産物として盛んにもてはやされたということです。

その宮城野の一角、榴ヶ岡を士民の集う遊楽の場としたのは、4代藩主伊達綱村です。生母三沢初子の菩提を弔うために、元禄8年(1695)釈迦堂を建立し、あたり一帯に桜を植えて以降、花見時には茶屋や芝居小屋がかり、さらに四季折々を楽しむ人々で賑わう場所となりました。



明治26年に建てられた宮千代の墓(左)



萩の花を楽しむ人々(奥州名所図会)(財)斎藤報恩会所蔵

# 東北大学植物園

東北大学植物園(旧東北大学理学部附属植物園)は、仙台城二の丸跡に研究と教育を目的として昭和33年(1958)に設立されました。本館の展示ホールでは、背後に広がる青葉山の植生や動物・昆虫といった自然生態系の構造について、ジオラマや標本・研究成果をもとに解説しています。

本館を入ってすぐに大きな杉の円盤標本が展示されています。これは、昭和41年の落雷によって倒れたものですが、年輪から樹齢を推測すると330年で伊達政宗が没した



堀切跡

寛永13年(1636)にまでさかのぼります。このような杉は仙台城二の丸を囲むように植えられたもので、今も本館の南側に残っています。また、青葉山の西側一帯に広がる山林は、江戸時代は「御裏林」と称され、仙台城の背後を守る重要な

地域でした。園内では仙台城を防衛する施設である堀切跡を確認することができます。明治維新後には陸軍や進駐軍の軍用地となるなど、長い年月にわたって市民の立ち入りが禁じられたことによって、市街地に近いながらも広大な自然林が残されることになりました。昭和47年には国の天然記念物の指定を受けています。

園内の遊歩道は、古来愛子から山形へと通じる古道「最上道」であったところもあり、道のかたわらには中世



園内に残る板碑

の供養塔である大きな板碑が2基建っています。一つは高さ2m近くもある弘安10年(1287)銘の板碑で、元寇と同じ年号であることから蒙古の供養碑と考えられたようで、「蒙古の碑」とも呼ばれています。もう一つの正安4年(1302)銘の板碑は4mほどの大きな井内石でできており、仙台市内で確認されている板碑のなかでも一番大きなものです。また、宝永7年(1710)に5代藩主伊達吉村が再建した茶室「残月亭」の跡も見られます。緑深い木立のなかにいると、すぐそばの道をバスが走っていることも忘れてしまいます。

東北大学植物園は仙台駅からわずか2.5km。手軽に森林浴体験をしながら、歴史も一緒に感じてみませんか。



本館

## 東北大学植物園

仙台市青葉区川内12-2  
TEL:022-795-6760

開園期間 春分の日～11月30日  
開園時間 9:00～17:00  
(入園は16時まで)

休園日 開期中の毎週月曜日  
(祝日の場合は開園、翌日休)

入園料 大人220円、小人110円

交通案内 本館へはJR仙台駅西口市営バスプール⑨より動物公園循環・青葉台行きなどに乗車、「東北大学川内キャンパス」下車徒歩約10分  
東北自動車道仙台宮城1.Cから国道48号経由約10分



## 最新刊 好評発売中!



宮城県内主要書店、仙台市博物館でお求めになれます。  
配送をご希望の方は、電話・FAXで(株)宮城県教科書供給所へお申し込みください。

発売元/(株)宮城県教科書供給所  
〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-3  
TEL 022-235-7181 FAX 022-235-7183

お問合せ先/仙台市博物館市史編さん室  
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)  
TEL 022-225-3074

### 通史編6 近代1

近代都市・仙台誕生—明治時代の人びとと暮らし

### 資料編9 仙台藩の文学芸能

伊達家の文化と教養一庶民に広がる文芸

#### 続刊予定

- ◎通史編/近代2、現代1～2
- ◎特別編/慶長遣欧使節
- ◎別編/地域史、年表・索引

通史編 3,000円(本体2,858円)  
資料編 4,000円(本体3,810円)  
特別編 6,000円(本体5,715円)  
※板碑のみ 5,000円(本体4,762円)  
1冊ずつお求めになれます

- 【通史編 1】 原始 ※改訂版とセットとなります
- 【通史編 2】 古代中世
- 【通史編 3】 近世1
- 【通史編 4】 近世2
- 【通史編 5】 近世3
- 【通史編 6】 近代1
- 【資料編 1】 古代中世
- 【資料編 2】 近世1 藩政
- 【資料編 3】 近世2 城下町
- 【資料編 4】 近世3 村落
- 【資料編 5】 近代現代1 交通建設
- 【資料編 6】 近代現代2 産業経済
- 【資料編 7】 近代現代3 社会生活
- 【資料編 8】 近代現代4 政治行政財政
- 【資料編 9】 仙台藩の文学芸能
- 【資料編 10】 伊達政宗文書1
- 【資料編 11】 伊達政宗文書2
- 【資料編 12】 伊達政宗文書3
- 【資料編 13】 伊達政宗文書4
- 【特別編 1】 自然
- 【特別編 2】 考古資料 ※完売しました
- 【特別編 3】 美術工芸
- 【特別編 4】 市民生活
- 【特別編 5】 板碑
- 【特別編 6】 民俗
- 【特別編 7】 城館

## お知らせ

### 『通史編1 原始 旧石器時代』(改訂版)の刊行について

旧石器遺跡発掘ねつ造問題をうけて改訂版を刊行しました。ご購入いただいた元版を博物館の「市史改訂版」係まで送料着払いでお送りいただくか、博物館まで直接お持ちください。お届けいただいた元版に改訂版を添えてお返しいたします。詳しくは市史編さん室までお尋ねください。

### 『特別編2 考古資料』正誤表シールの配布について

旧石器遺跡発掘ねつ造問題をうけて、『考古資料』のねつ造関連部分について修正内容を示した正誤表シールを作成しました。『考古資料』をご購入いただいた方に配布しておりますので、詳しくは市史編さん室までお尋ねください。